

同窓会報

む、う、せ、す、

母校の発展とともに

同窓会会长 大栗利夫

めぐまれた教育環境

紫陽花が色美しく咲き匂う季節を迎え、同窓生の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜びを申し上げます。

さて母校も来年で創立五十周年を迎えることになります。昭和三十五年にこの太平台に産声をあげて以来四十九年間、地域の皆様を初め多くの方々に母校教育に対する深いご理解とご支援、ご協力を賜わりながら今日まで発展を遂げることができます。ここに心より厚くお礼を申し上げます。

この間、平成六年には初代校長佐々木周二先生から二代目校長木村好成先生の誕生を見、初代校長の教育方針や理念を踏襲しながら、さらに成長、発展を期し教育環境の整備や質の向上

文武両道をめざして

難関私立大学への合格者数は確実に増えており、後退したことはございません。

今年度も国公立大学には一三五名(内二三〇名現役)が合格しました。

部活動においてもラグビー、ハンドボール、柔道、バレー、陸上競技、なぎなたの六部が栃木県大会で優勝し、関東大會出場を果たしました。中でも

朝露に映える紫陽花



に財源を投資され、その効果が進学や学習面に徐々に現われて参りました。特に進学面におきましては母校の校報や本同窓会報誌でお知らせいたしております通り、年ごとに国公立大学や

バレーボール部は関東大会優勝をするなどその活躍にはすばらしいものがありました。他の部活動においても上位進出を果たすなど活躍をしております。

進路、部活動の両面に亘っての母校教育の充実、発展が感じられます。一方母校への入学者が若干減りつつあるのは残念であります。勿論これは数年前に

創立五十周年に向かって学校

来年母校創立五十周年を迎えるに当たり、同窓会も記念

協賛事業としていくつかの行事を計画しています。

今年度は第一陣として、平成二十一年七月十日(金)に全高校生を招待してのオペラ「トスカ」を鑑賞しました。リニューアルした新国立劇場でのオペラ鑑賞はさぞかし感慨深いものだったことでしょう。この公演には、

所属の阿瀬見貴光氏(普30期生)も出演しました。

その他の行事としては、来年「卒業生芸術展」と題し、芸・書道・トールペインティングなど)で活躍している卒業生の作品を、隨時栃木駅前の教育センターに展示し、その活動と業績を讃えます。

また、平成二十四年には、同窓会創立五十周年を記念して、「記念講演会と祝賀会」を開催する予定です。

る結果ではないでしょうか。教育における私学の果たしている役割には極めて大きなものがあります。この状況にあります時、にこそ国や県は私学への助成金を増やし、未来を担う若者たちを育成すべきではないでしょうか。世界的不況で職をなくされている方が多い世でありますので、私学助成のさらなる充実をお願いしたいと思います。

さらなる発展を

オペラ鑑賞会

母校創立50周年記念事業賛同

アーティストによる演奏や、



「記念講演会と祝賀会」を開催する予定です。

者 大学校会
行院 等窓会
國学院
栃木高 同窓会
(〒 328-8588)
栃木市平井町608番地
電話 0282-22-5511

第32号

当局もいろいろと考えられることと思いますが、経済不況を乗り越えて、さらに母校教育が充実、発展できるよう同窓生諸氏のお力添えをぜひお願ひ申し上げます。五十年かけて築き上げて参りましたものの上に次なる五十年のスタートにふさわしい教育活動を教職員の皆様のご指導、ご協力によってして下さるとご期待申し上げております。母校が新たな伝統を築かれ、さらに発展されますことをお祈り申し上げます。

卒業生による
「三十年集いの会」
も、回を重ねて昨
年は十六期生が開
催した。母校を卒
業して三十年。高
校時代の仲間のこ
と、恩師のこと、
友のことを思い出
しても不思議では
ない。「健康である
ことを喜び合い、
高校時代にタイム
スリップして在り
し日の生活に思い
を馳せよう」とい
う純粋な気持ちで
十六年前にスター
トしたこの会であつ
たが、毎年数多く
の同窓生が集い、昨年は約二百
三十名の仲間が参加した。
平成二十年十一月二十九日
(土)、栃木のサンプラザを会場
にして、母校の木村好成校長、
中信両教頭、大栗利夫同窓会会
長を招待して開催された。

会は、早乙女宣夫副代表幹事
の司会進行のもと、金井利夫副
代表幹事の開会の辞で幕を開け
た。次いで、大成半ばにして心
ならずも「くなられた同期生の
御靈に默祷を捧げた後、福島正

時空を越えて

卒業以来三十年を経ての再会
は、想い出深く涙やかなひとと
きとなつた。恩師を囲んでの歓
談は途切れることなく続き、級
友、仲間との語らいも花の咲き
通しであった。白髪混じりの者
もいれば、メタボ体型の者もい
る。頭の毛が薄くなっている者
もやたらシワが増えた者も皆童
心に返って、夢中で語り合つて
いた。余程懐かしく嬉しかつた
のだろう。

最後に、全員で校歌を斉唱し、
村田文雄幹事の手締めの後、中
新井隆雄副代表幹事の閉会の辭
で、三時間に及ぶ「集いの会」
は盛況裡のうちに散会した。



恩師を囲んでの話は尽きず

浩代表幹事挨拶、来賓を代表し
て木村好成校長と大栗利夫同
窓会会長の同窓生に対する心温
まる挨拶と続き、大塚成穂幹事
(元生徒会長)の音頭で乾杯し、
歓談となつた。

卒業以来三十年を経ての再会
は、想い出深く涙やかなひとと
きとなつた。恩師を囲んでの歓
談は途切れることなく続き、級
友、仲間との語らいも花の咲き
通しであった。白髪混じりの者
もいれば、メタボ体型の者もい
る。頭の毛が薄くなっている者
もやたらシワが増えた者も皆童
心に返って、夢中で語り合つて
いた。余程懐かしく嬉しかつた
のだろう。

最後に、全員で校歌を斉唱し、
村田文雄幹事の手締めの後、中
新井隆雄副代表幹事の閉会の辭
で、三時間に及ぶ「集いの会」
は盛況裡のうちに散会した。

卒業生の皆さん、元気でお過
ごしのことと想います。私はこ
の三月で定年退職いたしました。
大学を卒業し、理科の教師とし
て赴任して四十一年、長いよう
であつという間の年月に感じら
れます。幸い、休むことなく健
康に勤務でき、今更ながら健康
のありがたさに感謝しています。
振り返るといろいろなことが
走馬燈のように懐かしく浮かん
できます。「明るく学習するク
ラス」を目指したH.R.経営。多
くの時間と労力をかけて作り上
げた文化祭や仮装行列。文化祭
では録音でも自分たちで手掛け
て映画を作ったり、「田中正
造」の研究のため足尾まで出かけたり、夜遅くまで実験室に残つ

て「洗剤」の研究をしたことな
どが鮮明に思い出されます。
天文部、山岳部を担当しました。
天文学部。屋上で見た流星の美し
さは忘れません。南北アルプス
で合宿をした山岳部では、同じ
金の飯を食べながら、自然の厳
しさ、美しさ、偉大さと共に体
験しました。こうして出会った
諸君たちと今でも交流を続けて
いられることは、本当に教師冥
利に尽きます。思えば本当に多
くの人たちとの出会いがあり、
その人たちの温かい励ましや支
えがあつたからこそ、大過なく
楽しく勤務できたと、心より感
謝しております。本当にありが
とうございました。

世の中は今、政治、経済、社
会、文化など、あらゆる面で著
しい変化、混乱が起こっています。
まさに激動の時代です。こ
うした激動の社会の中で、逞し
く生きて行くには、他人への思
いやりや優しさ、創造性溢れる
豊かな個性、そしてさまざまな
変化に適応できる柔軟な心が大

切だと思います。これから教育は、学力の伸張はもちろんのことですが、こうした豊かな人間性を培うことが一層求められます。これは、まさに國學院の建学の精神そのものです。
高等学校はもうすぐ創立五十周年を迎えるが、これから六十年、百年……と、校訓である「たくましく直く明るくさわやかに」の精神を継承、発展させ、常に品格ある学校として活躍することを心から願っています。卒業生の皆さん、これまで以上に在校生への激励や母校へのご支援をお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、お元気ですか。皆さんのご活躍を耳にする度に嬉しく思っています。私はこの三月で四十三年間の教師生活を終え、退職いたしました。
雨上がりの栃木駅に併む学生服の大学生、それが四十四年前の私でした。恩師から「栃木の國學院に行って面接をしてこい。東北本線に乗って小山駅下車、乗り継いで栃木駅だ」という説

四十年の教師生活に感謝



鶴見重孝
理科

山下宏
保健体育科

明だけで朽木までやつてきました。駅に着いて見知らぬおばさんに学校までの交通手段を尋ねると、あの山の方向に三十分くらい歩けという返答。途中で馬車が大きな袋を積んでのんびりと通行しているのにはびっくりしました。学校に近づくとバス停に女子高生らしい姿。これまでの七年間、男子寮で生活をしていたため男子校を希望していた私には大変なショックでした。しかし、意を決して共学校の本校に赴任させていただきました。

そんな私も日を追うごとに、水を得た魚のように毎日充実した教員生活を送りました。最初に出した卒業生は今年六十歳になりますが、毎年集まって一緒に人生を語り合っています。その後の卒業生たちも、それぞれに会を催しては声をかけてくれ、生徒に恵まれて幸せです。

実は私は「心の師」がいました。とはいっても自分で勝手に決めていたことですが、その人は東京オリンピックで日本バレーボール女子を見事金メダルに導いた「鬼の大松」こと、大松博文監督です。「『為せば成る』の気持ちを持って日々を送れ」と教えてくれました。この言葉を胸に秘め、専門の空手道から未知の世界であるハンド



丸山尚之

しかし、意を決して共学校の本校に赴任させていただきました。そんな私も日を追うごとに、水を得た魚のように毎日充実した教員生活を送りました。最初に出した卒業生は今年六十歳になりますが、毎年集まつて一緒に人生を語り合っています。その後の卒業生たちも、それぞれに会を催しては声をかけてくれ、生徒に恵まれて幸せです。

実は私には「心の師」がいました。とはいっても自分で勝手に決めていたことですが……。そ

明だけで朽木までやつてきました。駅に着いて見知らぬおばさんに学校までの交通手段を尋ねると、あの山の方向に三十分くらい歩けという返答。途中で馬車が大きな袋を積んでのんびりと通行しているのにはびっくりしました。学校に近づくとバス停に女子高生らしい姿。これまでの二年間、男子寮で生活を

ボール女子の指導にあたりました。体育大時代に、東洋の魔女たちを指導する大松監督の練習風景を見学するチャンスに恵まれました。また赴任二年目の創立記念講演会で、全生徒に講演してくれたのです。今考えると大変な出来事でした。講演後、私たち体育科教員にも会って言葉をかけていただきました。その言葉は私のハンドボール素人の監督の指針となり、苦しいときは「為せば成る」と自分を励まし歩んできました。その結果、常勝栃木女子高を撃破して初めて全国大会に出場したり、関東大会で二連覇、山形インターハイで三位入賞など、数多くの戦歴を残すことができました。

人生自作自演と自惚れた時期もありましたが、多くの人々が陰でその舞台を作り出してくれたことに大変感謝しています。退職にあたり、多くの皆さまより助言や激励をいたいたこと、紙面にお礼申し上げます。

とができましたのも、ひとえに佐々木周二前校長、木村好成現校長先生はじめ、多くの先生方にご指導いただきましたお陰と感謝しております。授業はもちろんですが、学校行事や部活動を通じてたくさんの生徒諸君とも接することができました。赴任当時の歓迎遠足では太平山遊覧道路の桜トンネルの中を、在校生が新入生を拍手で迎えて山顶まで歩き、三か年の学業成就を祈願するという行事がありました。その光景は今でも鮮明に思い出され、新任教師として身の引き締まる思いがしました。

また生徒研修や修学旅行での消灯後の見回りで、起きている諸君に廊下に座ってもらつたこともありますね。大変苦労して参加した文化祭、昭和四十三年頃の体育祭で、現在の民謡の始まりを男子生徒と踊ったこと、入退場門の制作では雨に降られを作り直したこと、苗場や鶴頂山でのスキー教室では吹雪の中を滑走したことなど、皆さんも思い出すでしよう。

私は赴任以来、剣道部の顧問をしてきましたので、特に多くの方の思い出があります。黒須厚子さんの全国大会個人優勝をはじめとして女子団体準優勝、同三位、男子団体三位入賞、そして



佐山洋

関東大会での女子団体優勝四回、同三位六回、男子団体三位入賞など、その時の嬉しさと選手の顔が浮かんできます。これは選手の努力はもとより、環境を整えてくれた学校と保護者の理解と協力がなければ成し得なかつたことです。

引き続き剣道の授業と剣道部の指導で学園にはお世話になりますが、健康に留意して頑張りたいと思います。皆さんもお元気でご活躍ください。

また、若いときの私は独りよがりのところがあり、独断専行的な行動を取っていました。そのような偏った考えは、先輩諸兄からのアドバイスによって、段々と修正されていきました。三つ目として、大きな組織というものは当然、多くの人々によって営まれ、形をなしていくものです。教師のみならず、事務職員、生徒みんなの眞面目な努力によってその学校の雰囲気、レベル、カラーが生み出されます。その学校全体に醸し出された作用によって國學院に勤めていた私が一步外に出たとき、外部の者は國學院の一員として私を見、私自身以上の付加価値をつけ見ていたように感じます。私自身の信用度が「國學院」という名によって増したと言つてもいいでしょう。

変わらなかつたのは、健康に関わる仕事柄がそう仕向けたのかも知れません。保健体育科教諭としてはやはり体育祭が一番の体験です。よくもあんなに大きなスケールのものを保健体育科の先生方を主として毎年催されるものだと感嘆します。

一つひとつ仕事を思い出の照明を当てていくと、次々と具体的な情景が浮かんできますが、何歳にならうが國學院は私の第二の生地です。学校に対する愛着と感謝の意を込めて、次の歌を詠んで終わりたいと思います。

四十と三年勤めし学園の
部屋・庭・廊下我が家と同じ



小林正男

地歴公民科

勤務していた私でしたが、急速退職することにしました。私の教員生活を支えてくれた両親に妻と共に恩返しするためです。急な話でしたので、先生方や生徒たちにはきちんとした挨拶ができず申し訳ありません。しかし、校報で私の退職を知った方々から電話をいただいたり、この原稿を通して、同窓生の皆さまにお礼の気持ちを伝えられるのが嬉しいです。

三十九年間の教員生活でしたが、その間二十八年連続して担任をし、千五百名近い生徒とお付き合いができました。卒業生とお会いすると、「全校マラソン大会・こまさ」の話が挨拶代わりになっています。計九回の総合優勝が私の実践の宝です。これは教え子の皆さん一人ひとりが頑張った実践の結果であります。入学式の日から「人としての生き方」を「全校マラソン大会」に喻えて話をしたのが最近のようです。素直な皆さんがあなづかしくて何にも替えられない宝物となつたことでしょう。

一昨年、還暦を過ぎた私は思うように体が動かず、髪も薄くなり、教室では生徒の顔と名前が一致せずに歳を感じています。

大学名	人数	大学名	人数
国公立大学		北里大学	7
秋田大学	2	共立女子大学	5
茨城大学	6	慶應義塾大学	1
宇都宮大学	1 3	工学院大学	1 2
大阪大学	1	国際医療福祉大学	1 4
北見工業大学	6	国士館大学	2
九州大学	1	駒澤大学	6
群馬大学	8	埼玉医科大学	4
埼玉大学	6	埼玉工業大学	3
信州大学	1	芝浦工業大学	1 1
千葉大学	6	順天堂大学	1
筑波大学	7	城西大学	1 0
筑波技術大学	1	上智大学	1
電気通信大学	2	昭和大学	4
東京海洋大学	1	昭和女子大学	3
東京工業大学	1	昭和薬科大学	1
東北大	2	成蹊大学	4
富山大学	1	成城大学	6
新潟大学	1	専修大学	6
山形大学	4	大東文化大学	7
横浜国立大学	1	玉川大学	8
愛知県立大学	2	中央大学	9
会津大学	2	帝京大学	1 2
青森公立大学	1	東海大学	1 4
秋田県立大学	5	東京家政大学	7
大阪府立大学	1	東京経済大学	4
釧路公立大学	5	東京国際大学	3
熊本県立大学	1	東京歯科大学	1
群馬県立女子大学	4	東京女子大学	2
埼玉県立大学	3	東京電機大学	1 3
高崎経済大学	5	東京農業大学	1 6
千葉県立保健医療大学	1	東京薬科大学	2
都留文科大学	6	東京理科大学	1 5
公立はこだて未来大学	1	東洋大学	2 3
兵庫県立大学	1	獨協大学	1 0
福井県立大学	1	獨協医科大学	3
前橋工科大学	1	奈良大学	1
山梨県立大学	1	二松學舎大学	1
横浜市立大学	1	日本大学	3 5
防衛大学校	2 2	日本工業大学	5
国公立大学 合計	1 3 5	日本歯科大学	1
私立大学		日本女子大学	4
國學院大學	1 4 0	日本薬科大学	2
青山学院大学	8	文教大学	9
麻布大学	2	法政大学	9
大妻女子大学	6	武蔵大	6
学習院大学	2	明治大学	2 0
学習院女子大学	1	明治学院大学	1 1
神奈川大学	6	目白大学	2
関西大学	2	立正大学	4
関西外国语大学	1	立命館大学	1
関西学院大学	1	早稲田大学	8
神田外語大学	1	その他の私立大学	1 3 6
関東学院大学	1	私立大学 計	6 7 6

ここでもう一度皆さんにも言つておきます。「やる気があれば今からでも日本一になれる!」自分捨てなかつた感想文の整理をすることがあります。新任教員としてお付き合いをした教え子はすでに五十歳の半ばを過ぎているのですね。諸君のことを思い出すと、今も当時の気持ちと変わらない自分を感じます。

ここでもう一度皆さんにも言つておきます。「やる気があれば今からでも日本一になれる!」自分捨てなかつた感想文の整理をすることがあります。あなたの予定は、担任をし記録も必ずその中にあるでしょ

伸びゆく進学実績

国公立大学合格 一三五名

平成二十一年度入試結果

今年度の大学入試センター試験志願者数は五四三、九九一名（現役志願率は四〇・四%（過去最高））であった。センター試験の平均点がダウンしたこともあり、国公立大の志願者数はやや減少したものの、私立大の延べ志願者数は前年を若干上回る数となつた。ただし、全ての私立大で志願者が増加したわけ

ではなく、志願者が集まる大学と集まらない大学との二極化がさらに拡大した。本校においては、前年同様、現役生の健闘が光った。国公立大学（防衛大学校を含む）に一三五名が合格。国立難関大は堅調に受験生を集めている中で、大阪大学・東北大などの旧帝大に四名、難関の東京工業大学にも現役合格した。また、

筑波大学（七名）・千葉大学は六名などその他の難関大にも多数合格している。埼玉・宇都宮・茨城・群馬大学の合格者は合計三三名。山形大学医学部にも合格し、一年連続で国立大医学部に合格者を出した。

私立大学においても努力が実り、早慶上智・東京理科・GMA・ARCUS・学習院・明治・聖心・立教・中央・法政の難関・上位一〇大学合格者は七〇名を突破。中堅の日東駒専も七〇名が合格した。

また、系列の國學院大學に四〇名、國立短大には一四名が合格している。

う。これからは室内をはじめとした家族のため、地域のため、自分のために頑張ります。そして栃木市民として國學院栃木を応援していきます。

母校を卒業後、さまざまな分野で同窓生が活躍しています。今回も、三名の会員の方に卒業後の歩みや近況について原稿をお寄せいただきました。

会員だより

古田佳子



(普25期生)

日本民族の生活の中から生まれ、唄い継がれてきた民謡。残念ながら最近は、テレビ、ラジオからも民謡番組が消えつつあります。そのような中、一昨年ほど前から栃木放送「古田佳子和楽囃子が聴こえる」という民謡番組のパーソナリティーを務めさせていただいております。内容は、本来の形の民謡、アレンジ民謡等をお伝えしたり、地元の民謡愛好家の皆さんに出演していただきたり、選曲も民謡に限らずリスナーの皆さんとの接点を大切にと心がけ、楽しい番組を目指して頑張っておりまします。また、私の夢でもあった、

コンサートに参加させていきました。杉原千畝さんは第二次世界大戦中、リトニアの首都カウナスの日本領事館に勤



ことかできました。
このことへの感謝の
気持ちを忘れること
なく、民謡の魅力を
多くの人達に伝える
ため、国境やジャン
ルを越え、様々な音
楽、芸能とコラボレー
ションにチャレンジ
しつつ、正調民謡を
若い人達に伝える役

た。そして初めて触れる檜円球の魅力に引き込まれていきました。高校進学後も部活動を続け、全国大会を目指す日々でした。確かに、運動が生活の大部分を占めていたと思いますが、「部員である前に國柄の生徒だ。決して自分の立場をはき違えるな。」という吉岡先生の言葉に従い、時間こそ十分には取れませんでしたが、勉強にも最大限の努力をした

木での生活で得た財産が、私の自信・勇気となり、原動力となつたのは言うまでもありません。夢であつた伝統のユニフォームにも袖を通してることができましたし、挑戦しそれを最後までやり抜く根性と謙虚な姿勢、人との出会いに感謝する心を鍛えられました。組織の一端を担い、様々な感動を味わうことができたこの四年間も、私にとってかけが

民謡を通しての国際交流。今年の五月には日本・ドナウ交流年のイベントの一つとしてウイーンのヨハン・セバスティアン・バッハ音楽学校と音楽交流を行いました。ここでは、子どもたちに和楽器や民謡、わらべ歌、童謡等の日本の音色を聴いてもらったり、書道、折り紙等、音楽以外の日本文化も体験してもらいながらコミュニケーションを取つて相互の交流を深める事ができました。また、二〇〇七年にも杉原千畝メモリアルコンサートと題して、リトニアでの交流

がらも、「人道・博愛精神第一」と、二千枚のビザを発給したそうです。我々は杉原さんには遠く及びませんが、 Chernobyl のアーリに近いリトアニアのカナウス 医科大学小児病棟内小児がん撲滅基金へ、日本での寄付金と、コンサートの収益金全額を寄付して参りました。このような事での海外公演も多いので、普通の海外旅行では接することのできない方々とお会いすることも沢山あります。私はこれまでに民謡を通じて多くの人びとに出会い、沢山の貴重な体験をする

私は、國學院大學栃木中学校・高等学校・慶應義塾大学を経て、現在N H K（日本放送協会）に勤めています。國學院栃木で多くの先生方・仲間・ラグビーに出会ったことで、今の私があると切に思います。

國學院栢木中学校の三期生として入学し、当時、中学校一年一組の担任だった吉岡肇先生の勧めでラグビー部に入部しまし



(普42期)

をして取り組めたという自信があります。決して一番頭が良かつたわけでも、一番運動ができたわけでもありませんが、文武両道を目指し懸命に取り組めたと思います。

大学生になり、今度は大学日本一を目指す生活が始まりました。全国から優秀な人間が集まり、部で自分が通用するのか、四年間で卒業できるのか、といった様々な不安がありました。そのような時、六年間の国學院橋

務していました。そのとき、ナ
チスドイツの迫害から逃れてき
割もきちんと果たしていく
ます。

小松守



(普42期生)

A black and white photograph of four individuals, three men and one woman, all dressed in dark business suits. They are standing close together, smiling, and each has their right fist raised in a pumping motion. The background shows what appears to be a modern office or lobby with large windows.

筆者左から 2 番目

えのない財産です。

そして現在、N H Kに就職し、四月から沖縄放送局に配属になりました。まだ右も左もわからず業務を覚える事で一日が終わってしまうような毎日ですが、ローカルの番組に出演したり、広報誌に登場したりもしています。仕事においても、この先、想像できないほどの多くの苦労が待ち構えていると思いますが、その時こそ、私の出発点である國學院柄木での経験を糧に、真正面から向き合っていきたいと思っています。

川崎友梨

(普42期生)

同窓会誌に寄稿する機会を頂き、大変光栄です。僭越ですが私の進路の経緯等を書かせて頂きます。

中学・高校時代には、数えきれないほどの思い出がありますが、その数だけ自分自身の成長や、先生方・仲間への感謝があります。今は、直接言葉で感謝を述べることよりも、目の前のことから挑戦し、やりきる事が最大の恩返しだと考えています。そして自分が頑張っていることが知人・友人の間を話として巡り、「小松も元気にやっているな。」と思って頂けたら、自分にとってこれ以上の喜びはありません。最後になりましたが、國學院

子どもの頃から私は日本美術、伝承文学（昔話・伝説など）や寺社仏閣に大変興味がありました。絵画・工芸品・彫刻などの日本美術は、制作時の時代背景や作者の心情、その手法の美しさなどが時を越えて過去から流れ続け、当時の文化の息遣いを現代の私達に伝えてくれていると、私は考えています。また、人から人へと伝わってきた昔話やその土地にまつわる噂話などは、人びとが自然に対する脅威や崇拜の念を持って生きてきた証であり、その地域の文化であると思うのです。

私は高校での進路選択の時、伝承文学を主専攻しながら博物館学を副専攻して学芸員の資格を取得できる、國學院大學文学部への進学を希望しました。



活動に力を入れ始めた頃、私は学芸員の資格取得と並行して神職の資格取得に励みます。この頃はまだ「日本語」が「日本語」で「日本文化」が「日本文化」として認識されていませんでした。そこで、私は「日本文化」を世界に広めることを目的として、日本文化の普及活動を行なってきました。

を抜いた文化財であることを知り、強く感銘を受けました。そしてこれらの宝物のすばらしさを多くの人びとに伝えていたらと思うようになると同時に、日光東照宮への奉職を意識するようになりました。

大学では、調査・研究の基本から、レポート作成、研究発表などを通して多くを学び、充実した学生生活を送っていましたが、伝承文学の研究から各地に存在する寺社仏閣にも関わりを持つようになり、「神道芸術」にも次第に興味が広がっていきました。特に寺社仏閣の所有する宝物は日本芸術の集大成であり、その中でも日光東照宮の所蔵する宝物は、量・質ともに群を抜いた文化財であることを知り、強く感銘を受けました。そ

の收集を続けています。
これからも神職として、また
文化を探求する者として自」の
研鑽に励み、日本の美術・伝承・
寺社仏閣の大切さ、すばらしさ
を多くの人に伝えていきたいと
考えています。

東照宮での日々は常に新鮮で先輩神職の方々から頂くご指導に感謝し、また参拝者の皆様から受けける質問や感想に新しい発見をしながら、少しずつ自分なりの調査・研究に役立てていまます。休日には、同じ志を持つ大學生時代の友人たちと日本各地の寺社仏閣を巡り、御朱印を頂いたり、境内の様子を写真に收めたり、その土地の話を伺ったりして、「生きている日本文化」の収集を続けています。

と、今深く感謝しています。
平成二十年三月に大学を卒業
した後、神職（正階位）と学芸員の二つの資格を持って、希望どおり四月より日光東照宮に奉職させて頂きました。そして七月、日光東照宮四〇〇年の歴史の中で初めての女性神職を拝命致しました。現在は宮掌という位で奉職させて頂いています。

〔平成二十一年度分〕
二千円
内田
一月
会費納

二千円
高藤浅元増遠天川鶴神猪荒若佐川小山大針関斎間大小金福大高鈴亀篠山橋井野島田藤海村見山山熊川松野田谷中野谷根藤中浦出子地橋木山崎口
新新松青星黒梁野瀬
井井澤木野
百美
英合
代
子昭子
孝豊
費手小川山山藤松稻長塩石野飯藤福黒太鈴
束林島本崎山葉谷島川島倉田川田木
美美
智照早光忠誠厚か友靜雄喜幸保
子枝明苗子孝史子
子一徹伸子子茂市

会費納入者芳名

國學院栃木高等学校

六年一貫教育の成果

國學院栃木中学校は平成八年に開校して以来、本年度で十四年目を迎える。中学校学則の第一章第一条には「本校は、教育基本法および学校教育法に基づき、且つ國學院大學設立の精神に則り、小学校における教育の基礎の上に心身の発達に応じて、中等普通教育を授け、健康で明るい調和のとれた個性豊かにして国家社会に有用な人間を育成することを目的とする」とある。

現在は、高校三年生である九期生から中学一年生である十四期生までの総勢四百二十八名が在学中である。地方の私立中学校でありながらも善戦、多くの方々から理解を得、現在では卒業生の人数も四百八十三名に達し、毎年、国公立大学、難関

大学などにも三十二名が合格した。東京大学や大阪大学、北海道大学、東北大学、九州大学などの旧帝国大学をはじめ、東京工業大学、お茶の水女子大学などの難関大学、そしてその他にも多くの国公立大学に合格をしている。六期生では高校創立以来初の国立大学医学部医学科への合格者も出した。

また、難関である防衛医科大学校の一名をはじめ、防衛大学校、海上保安大学校、航空保安

大学等百九名(内、医学科三名、歯学科五名、薬学科九名)が合格している。

私立大学、医歯薬系大学に多く

の者が合格している。

卒業生の進路状況

国公立大学	人数	私立大学	人数
東京大学	1	國學院大學	64
北海道大学	1	早稲田大学	33
東北大学	4	慶應義塾大学	8
大阪大学	2	上智大学	7
神戸大学	1	東京理科大学	29
九州大学	1	立教大学	16
東京工業大学	1	学習院大学	4
千葉大学	6	青山学院大学	15
埼玉大学	10	中央大学	18
宇都宮大学	9	明治大学	35
群馬大学	11	法政大学	16
茨城大学	13	岩手医科大学	3
お茶の水女子大学	4	獨協医科大学	5
横浜国立大学	4	東京薬科大学	7
電気通信大学	4	津田塾大学	3
筑波大学	5	東京女子大学	12
東京農工大学	2	同志社大学	2
東京外国語大学	5	立命館大学	4
東京学芸大学	4	獨協大学	19
防衛医科大学校	1	北里大学	13
防衛大学校	27	医歯薬系大学	98
その他の国公立大学	123	その他の私立大学	408
合計	239	合計	821

平成二十一年度入試結果

平成二十一年度の大学入試結果であるが、国公立大学(文部科学省所管外大学校も含む)においては、東京工業大学、大阪大学、東北大学、千葉大学、埼玉大学等三十四名、私立大学では、早稲田大学、慶應義塾大学

は、東京慈恵会医科大学、自治医科大学医学部医学科や歯学部、薬学部にも合格。年々その数を増やし続けている。



白熱するサッカー

上智大学、東京理科大学、明治大学等百九名(内、医学科三名、歯学科五名、薬学科九名)が合格している。

スポーツフェスティバル

平成二十一年六月二十日(土)

好天に恵まれ、ご父母が声援を

送る中、毎年恒例のスポーツフェ

スティバルが行われた。男子は

サッカー、女子はバスケットボ

ルを学年をこえてトーナメント

形式で行った。

生徒たちは、それまでの練習

の成果を遺憾なく發揮、特に三

年生は、クラスのTシャツや旗

などを作成して、試合・応援と

もに盛り上がりを見せた。時に

下級生のチームが、上級生の

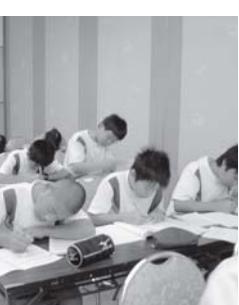
チームに勝利するなどの番狂わ

せもあったが、最終結果は、男

女とも三年三組が優勝を果たし、

先輩としての意地を見せる形で

幕を閉じた。



真剣に取り組む(サマースクール)

スポーツフェスティバル結果
〈男子〉 優勝 三年三組
〈女子〉 準優勝 二年二組
準優勝 三年三組
三年一組

**國學院大學栃木短期
大學との連携教育**

**『総合的な学習』の
特別講座を開講**



校外学習中学三年奈良東大寺にて

中学校では創設当初より自然体験学習（赤城・那須甲子・尾瀬）、芸術鑑賞、校外学習（日光・鎌倉・奈良）、語学研修（ニュージーランド）等の様々な体験型学習を通して、「総合的な学力」の育成を目指している。

の質の向上を図ることを目的にしている。

今年度の第一回目の講座は、

七月中に本学園短期大学西三号館で行われる。講師は昨年度にも協力していただいた、マスク

ミでも活躍されている本学園短期大学国文学科の千明守教授である。「大学で古典文学を研究

すること」というテーマで、先生ご自身が研究してこられ、感じたことや考えたことを話していただることになって

いる。昨年度は、中学生にも具體的に分かりやすく文学を語つていただき、絶妙な語り口調で笑いの絶えない楽しい講座が行われた。今回は中世の代表的な作品である『平家物語』の「殿下乗合事件」を取り上げていたしたことになっている。

また昨年度は、日本史学科の鍛代敏雄教授による「信長の遺産」、家政学科の湯川晴美教授による「中学生における食生活と健康状況との関連」の講座も行われ、中学校の教員も高い関心を持って参加していた。保護者も無料で参加できる公開講座であり、保護者にとっても絶好の教養講座として期待されている。中学校では今後も継続してこの『総合的な学習』の特別講座を実施していく予定である。

第三学年に関して、本学園の短期大学と連携を取り、特別講座を開設している。社会的に多様な経験や高度な専門性を持つ教員陣の指導を組み入れ、体験型学習と連動させて、一層の学習

更にその学力を高めるために、

授業の指導を組み入れ、体験型学習と連携を取り、特別講座を開設している。社会的に多様な経験や高度な専門性を持つ教員陣の指導を組み入れ、体験型

平成21年度 一般会計收支予算

(単位:円)

項目	予算額	前年度予算額	比較増△減額	備考
前年度繰越金	3,784,647	3,865,163	△80,516	
会費	入会金(本年度卒業生)	1,060,000	1,060,000	0 2,000×520名
	30年会費(本年度卒業生)	13,250,000	13,250,000	0 25,000×520名
	30年会費(既卒者)	1,000,000	1,000,000	0 20,000×50名
	年会費(既卒者)	100,000	100,000	0 2,000×50名
基金会计より繰り入れ	4,000,000	0	4,000,000	50周年記念協賛事業
雑収入	5,353	837	4,516	
合計	23,200,000	19,276,000	3,924,000	

支出の部 (単位:円)

項目	予算額	前年度予算額	比較増△減額	備考
運営費	印刷費	600,000	600,000	0
	通信運搬費	2,500,000	2,500,000	0 会報発送、振込料等
	機器備品費	300,000	300,000	0
	消耗品費	50,000	50,000	0
会議費	300,000	300,000	0	幹事会、本部役員会
事業費(1)	会報出版費	1,200,000	1,200,000	0
	名簿作成費	150,000	150,000	0
事業費(2)	学園助成費	3,000,000	2,500,000	500,000
	30年集いの会助成費	350,000	350,000	0
	梅津杯助成費	300,000	300,000	0
	クラス会助成費	300,000	300,000	0 10,000×30クラス
記念品費	2,500,000	2,500,000	0	卒業生記念品等
涉外費	涉外費	300,000	300,000	0 なまず後援会等
	広告費	200,000	200,000	0 ラグビー全国大会等
福利厚生費	200,000	200,000	0	
慶弔費	弔慰金	100,000	50,000	50,000
	見舞金	20,000	20,000	0
	通信費	5,000	5,000	0
積立金	基金会计繰入金	2,000,000	2,000,000	0
積立金	部活動後援積立金	500,000	1,000,000	△500,000
	同窓会50周年記念積立金	500,000	500,000	0
	母校創立50周年記念事業(芸術鑑賞)	4,000,000	0	4,000,000
次年度繰越金・予備費	3,525,000	3,501,000	24,000	
合計	23,200,000	19,276,000	3,924,000	

平成20年度 一般会計収支決算

(単位:円)

項目	決算額	予算額	比較増△減額	備考
会費	前年度繰越金	3,865,163	3,865,163	0
	入会金(本年度卒業生)	1,072,000	1,060,000	12,000 2,000×536名
	30年会費(本年度卒業生)	13,400,000	13,250,000	150,000 25,000×536名
	30年会費(既卒者)	1,480,000	1,000,000	480,000 20,000×74名
年会費(既卒者)	108,000	100,000	8,000 2,000×54名	
雑収入	53,479	837	52,642 銀行利息	
合計	19,978,642	19,276,000	702,642	

支出の部 (単位:円)

項目	決算額	予算額	比較増△減額	備考
運営費	印刷費	572,145	600,000	27,855
	通信運搬費	1,982,940	2,500,000	517,060 会報発送、振込料等
	機器備品費	315,980	300,000	△15,980
	消耗品費	59,555	50,000	△9,555
会議費	179,800	300,000	120,200 幹事会、本部役員会	
事業費(1)	会報出版費	883,575	1,200,000	316,425
	名簿作成費	0	150,000	150,000
事業費(2)	学園助成費	2,800,000	2,500,000	△300,000
	30年集いの会助成費	350,000	350,000	0
	梅津杯助成費	300,000	300,000	0
	クラス会助成費	230,000	300,000	70,000 10,000×23クラス
補助費	142,900	450,000	307,100 國學院祭食券、幼稚園等	
記念品費	2,376,500	2,500,000	123,500 卒業生記念品等	
涉外費	涉外費	66,000	300,000	234,000 なまず後援会等
	広告費	126,000	200,000	74,000 ラグビー全国大会等
福利厚生費	193,600	200,000	6,400	
慶弔費	弔慰金	115,000	50,000	△65,000
	見舞金	0	20,000	20,000
	通信費	0	5,000	5,000
積立金	基金会计繰入金	2,000,000	2,000,000	0
積立金	部活動後援積立金	1,000,000	1,000,000	0
	同窓会50周年記念積立金	500,000	500,000	0
	次年度繰越金・予備費	5,784,647	3,501,000	2,283,647
合計	19,978,642	19,276,000	702,642	

*【基金会计への繰入れ】決算承認後、次年度繰越金のうち、2,000,000円は基金会计に繰入れられます。

母校が変わります

来年度(平成二十二年度)から、母校が以下の点でリニューアルします。

①特別選抜Sコースを新設

東大・京大など旧帝大や国立医学部・早稲田・慶應などの難関大学合格を目指すコースを新設します。定員二十名。

既設の特別選抜コースでこれまで実施してきた上位者に対する特別講習をベースに独自のカリキュラムを用意し、一人ひとりの進路目標達成に向け少人数制によるきめ細やかな指導を行います。

②國學院大學進学クラスを新設

普通科選抜Bコースに二年次より國學院大學進学クラスを設置します。高大連携授業を一層充実させ、六年一贯教育(高校二年・大学四年)を目指します。

さらに高校で取得できる大学の単位数を増やすなど大学附属校としての教育内容が進化します。

③高校入試出願形式の簡素化

出願時のコース選択がより分かりやすくなります。普通科・国際情報科とともにスライド合格制度によって得点に応じたコースの合格を判定しますので、受験生は安心して受験することができます。

できます。

④「入学手続金(四万円)不要

併願合格者に対する入学金の納入期限は公立高校合格発表(一次募集)の翌日までです。これまで入学金の一部として分納金(四万円)を納めて頂きましたが、平成二十二年度募集からその必要はありません。なお、単願合格者の入学金納入については、従来通り分割・一括を選択することができます。

⑤新しい制服が誕生

平成二十二年度入学生から男女とも格調高い、これまで以上に上品なブレザースタイルになります。また、夏服・冬服ともに機能性と耐久性を追及した新素材を使用しています。快適でアクティブなスクールライフといいます。

◎平成二十二年度入試説明会日程

高 校

第一回	十月三十四日(土)
第二回	十一月七日(土)
第三回	十一月三十日(土)
第四回	十一月二十九日(日)
第五回	十一月十三日(日)
第六回	十一月二十日(日)

平成 21 年度 幹 事 会 報 告

なるでしょう。

平成二十一年度同窓会総会(幹事会)が六月二十日(土)

議事に先立ち、木村好成校長により、

平成二十一年度の入学者が五十期生であること、来年秋に創立五十周年を迎えること、そして今年九十七歳となる佐々木周二学園長・名誉校長はご健在であり母校を見守って下さっているとの挨拶がなされた。

議事は、第一号議案である平成二十一年度事業報告にはじまり、第二号議案の平成二十一年度決算

立すべきにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの会が予定されているとの報告があり、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事はあり、新たな理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号議案の平成二十一年度事業計画案、続いて第四号議案平成二十一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任についてでは、新たに十名の本部役員理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの会が予定されているとの報告があり、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計画案、続いて第四号議案平成二十一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計

画案、続いて第四号議案平成二十

一年度収支予算案と順次すすみ

審議・承認された。

第五号議案新理事委任につい

ては、新たに十名の本部役員

理事が推薦され、承認された。

第六号議案母校創立五十周年記

念協賛事業について、本部から在校生を招待してのオペラ鑑賞会や栃木駅前の母校教育セン

タードにて、各分野で活躍している卒業生の芸術展の開催などの計画が発表され、承認を得た。

最後に秋に十七期生の集いの

会が予定されているとの報告があ

り、会は滞りなく終了した。

尚、新たに承認された理事は

以下通りである。

報告及び会計監査報告、第三号

議案の平成二十一年度事業計